

学校だより No. 5
青森市立佃小学校
令和4年7月21日発行

全校児童数	463名
男子	226名
女子	237名

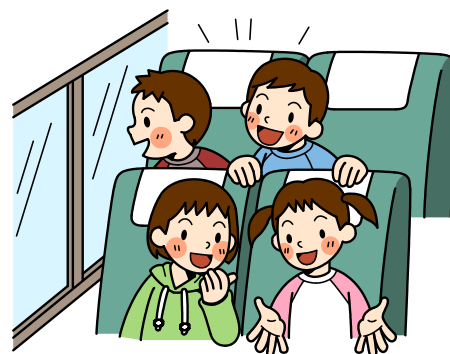
◆教育目標◆

あかるく・かしく・たくましく

声を掛け合って…

校長 山田 彰利

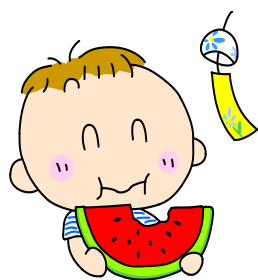
6年生と、2泊3日の函館修学旅行に行ってきました。保護者の皆様のご理解とご協力には改めて感謝いたします。1日目は午後から雲も薄くなり、夜景もバッチリ見ることができました。3日目の買い物の時間帯だけ雨風が強く、子供たちには気の毒でしたが、それでも充実した3日間でした。



さて、修学旅行中、子供たちはグループでの行動が中心になります。ホテルでは、入浴の際、食事の際、部屋ごとにまとまって行動しますし、自主研修も班での行動です。それは、グループでの行動を通して仲間のよさを再発見してほしい、という修学旅行のねらいがあるからです。一方で、グループで行動することによって未然に防げるものもあります。思わぬ事故に巻き込まれたり、時間に遅れたり、忘れ物をしたり、といったことです。その時に大切なのが、お互いに声を掛け合うことです。修学旅行中、6年生の先生方も事あるごとに「声を掛け合って」と、子供たちに指導していました。

6年生は、見事に実践できていました。ホテルの中では、忘れ物がないか、時間に遅れないか、自主研修中は、一人で勝手な行動をとる人がいないか、危険な行動がないか、など子供たち同士で声を掛け合う姿をよく目にしました。しかも、トゲのある言い方は決してせず、ふんわりと温かく言えるのです。だからなのか、言われた方も聞き入れることができていたし、もめ事にもなりません。大人でも難しいこうした巧みな折り合いの付け方、関わり方の巧みさに感心するばかりでした。

こうした声の掛け方は、我々大人も見習うことが多いと思います。同じ一言でも、相手が、子供がどう受け止めているかを考えつつ発せるようになりたいものです。



いよいよ夏休み。教室を離れる33日間です。夏休みならではの、身近な直接体験の機会を、是非設けてあげてください。そして、お子さんにたくさん声を掛けてあげてください。見守られているという感覚は、自分自身を大切にしようという自尊感情の高まりにつながります。

8月24日、夏休み明け集会では、たくましくなった子供たちと会えることを楽しみにしています。

4月からの3ヶ月間、学校の教育活動へのご理解とご協力、大変ありがとうございました。